

年頭の辞

観光部長 西畑 知明



令和5年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、観光産業は、2年以上にわたり厳しい状況が続いてきましたが、昨年10月11日からは全国旅行支援がスタートするとともに水際対策の緩和によりインバウンドの個人旅行が再開になるなど、ウィズコロナ・アフターコロナにおける「観光立国の復活」に向けて動き始めました。

観光は、ホテルや旅館での宿泊のみならず、交通、飲食、物販など裾野が広く、「成長戦略の柱」であり「地域活性化の切り札」となるものです。これからは特に、「観光で地域が稼げる・潤う」ようにしていく必要があります。次の3つの考え方がポイントになると考えています。

1点目は、「量（観光客数）より質（観光消費額）への転換」です。観光客には、ただ来てもらうだけでなくしっかりと地域で消費してもらい、さらには長期滞在やリピーターにつなげていくことが重要です。そのためには、訪問者目線（マーケットイン）での観光コンテンツの磨き上げをはじめ、泊食分離やナイトタイムの活用など地域全体にお金を落としてもらうための仕掛けも考える必要があります。

2点目は、「高付加価値化・高品質化」です。良いものをできるだけ安く提供することを競うのではなく、観光の持続可能性という観点からも、良質で本物のサービスを相応の価格で提供していくべきです。高付加価値化を通じ、一定の稼働率があれば安定的に収益を確保できるような構造にシフトすることで、稼働率至上主義的な経営から脱却でき、働き方にもゆとりが生まれ従業員の待遇改善や人手の確保につながります。

3点目は、「地域連携・広域連携」です。訪問先として「選ばれる」ためには、その地域ならではの体験・価値を提供することが求められます。それだけで観光客を呼べるようなキラーコンテンツを持たない地域であっても、自治体の枠を超えて広域で連携し、それぞれの地域にある観光資源を相互に掛け合わせるにより、広域エリアとして独自色を打ち出せるのではないのでしょうか。

九州では、7月に世界水泳福岡大会、10月にツール・ド・九州といった世界的なイベントも予定されており、こうしたチャンスを逃さず、その波

及効果を九州全体でしっかりと取り込むことができるよう、九州運輸局観光部一同、地域の関係者の皆様との連携を強化しつつ、一層の努力を致します。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。